

コフキトンボ

Deielia phaon



< 生物の写真 >



< 環境写真 >

分類群	魚類	貝類・甲殻類		爬虫類・両生類		昆虫類		
種の特性	絶滅危惧種	危急種		希少種		外来種	指標種	
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州 沖縄

【分布】

北海道南部、本州、四国、九州に分布する。離島では伊豆三宅島、淡路島、奄岐、五島列島の福江島、天草諸島、種子島、トカラ列島中之島、沖縄良部島、沖縄本島などに分布する。

【名前の由来】

成熟すると体に粉が吹き出ることから「粉吹きトンボ」とされる。

【形態的な特徴】

体長 40mm（腹長 24～31mm、後翅長 28～39mm）ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。シオカラトンボに似るが、これをいくぶん寸詰まりにした感じのトンボ。翅は透明で真珠光沢があり、体は黄褐色の地色に黒色の条斑がある。未成熟個体でも胸部と腹部に蒼白色の粉を生じ、雄雌でほとんど差が無い。ただし、雌には地色の黄色が鮮やかで腹部背面にははっきりとした黒条があり、成熟してもまったく白粉をまとい、翅の先端側 3 分の 2 の所に褐色の帯がでるオビトンボと呼ばれるタイプがいる。

幼虫は体長 21～23mm（頭幅 5～6mm）ほどで黄褐色から汚褐色地に複雑な濃色斑のある、やや肌目のなめらかなヤゴ。羽化殻は泥をつけていることが多い。

【生態的な特徴】

成虫は 5 月から 9 月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、水際の植物の細い茎や葉裏などに[定位](#)して、羽化をおこなう。未成熟個体は羽化水域をあまり離れず、[挺水植物](#)などに鈴なりになって止まっているのが見られる。成熟した雄は、日中、池面を低く活発に飛び回り、縄張りを張る。交尾は、日没前後に多く見られる。交尾を終えた雌は、単独で水面に漂う浮葉植物などに腹を打って、[連続打水産卵](#)する。卵は、水面から少し沈んだ植物の茎や葉浮遊物などに付着する。

【生息環境】

おもに平地のヨシやマコモ、ガマなどの[挺水植物](#)が繁茂する池沼や湿地、水田などに生息する。大きな湖や水郷地域の溝川にも多いが、しばしば海岸縁の汽水沼にも生息している。

【生息状況】

かつては溜め池などに多数群れている光景が各地で見られたが、現在は発生地も少なくなっており、大きな群を見かけることも珍しくなった。

【生態系保全のための留意点】

ため池などに好んで生息するが、岸辺にやや植生が見られる程度で全体に開放的な水域が必要である。本来群れているトンボなので、他種との共存も含め広域で多様な水域環境の確保が求められる。